

# 周

すさい

# 匝

## 浦上氏から片桐池田家へ

周匝茶臼山城跡に建つ城型展望台

備前・美作国境の要衝地における  
近世社会の形成を探る  
その舞台「周匝」は古代から続く  
地名である

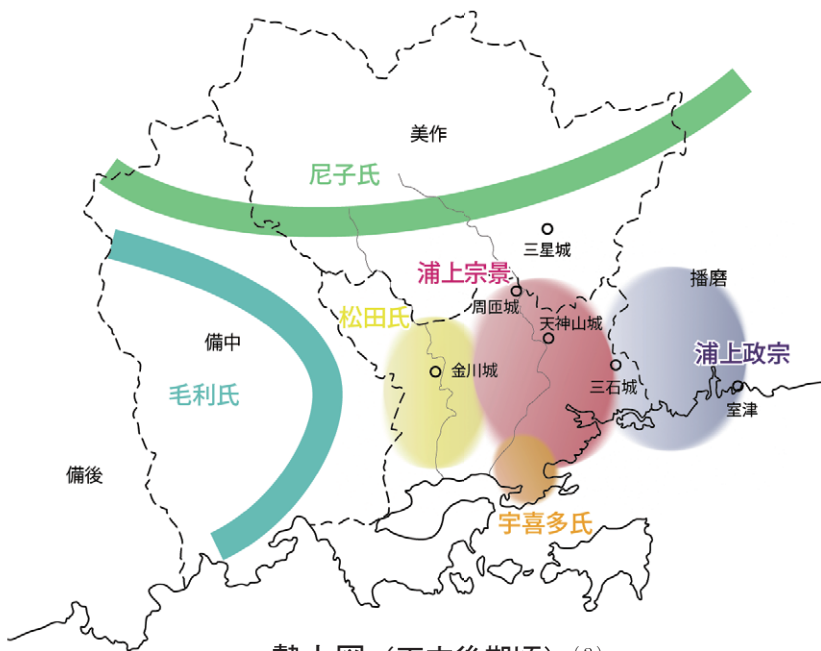
平城宮跡出土の七四五（天平一七）年末簡より

# 1 周匝茶臼山城跡と大仙山城跡—戦国時代—

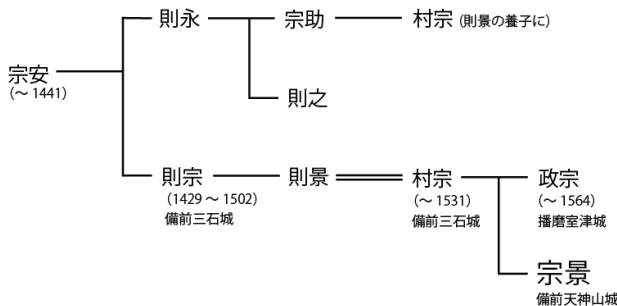
## (1) 浦上宗景の勢力

戦国時代、現在の赤磐市周匝周辺は浦上氏の影響下にあった。浦上氏は備前国東部を支配下においていたが、備前国西部の松田氏をはじめ、周辺地域との勢力争いが絶えなかった。

中国地方では、出雲国の尼子氏や安芸国の毛利氏が勢力拡大を図り、備前国にも侵攻をもくろんだ。1551（天文 20）年、尼子晴久は軍勢を率いて美作国へ侵攻し、その勢力は備前国に及び、「周匝城」も攻略したとされる<sup>(1)</sup>。翌年、晴久は備前・美作両国をはじめ8か国の守護職に任命される。「周匝城」は現在の周匝茶臼山城跡と大仙山城跡のことと考えられる。浦上氏当主の政宗と宗景の兄弟は対立しており、政宗は晴久と同盟を結び、宗景は尼子氏と対立する毛利氏に支援を求め、備前国内でも複雑な抗争が繰り広げられた。この抗争には松田氏や備中国の三村氏も巻き込みながら展開するが、1555（天文 24）年、宗景は尼子氏と政宗の軍勢を天神山城（和気町岩戸・田土）から退け、その後、宗景は備前国東部の領主としての地位を確固たるものとしていった。江戸時代に著された『備前軍記』は周匝城主を宗景方に属していた佐々部（笹部）勘齋（勘二郎・勘次郎）としている。周匝の地は備前・美作国境の要衝地として、尼子氏と浦上氏の勢力争いの舞台となった。



勢力図（天文後期頃）<sup>(2)</sup>



浦上氏の略系図

### 浦上氏

備前国は有力な守護大名赤松氏の支配下にあったが、赤松氏は播磨・美作国守護も兼ねており、備前国は浦上氏を守護代として領国支配を行っていた。ところが、浦上氏は守護を圧倒するようになり、1521（大永 1）年、浦上村宗は赤松義村を討ち、三石城（備前市三石）を中心に備前国東部から美作、西播磨一帯に勢力を広げた。村宗の死後、長男政宗は播磨国室津（兵庫県赤穂市）を居城に家督を継ぐが、次子宗景は政宗と不和になり、1554（天文 23）年に天神山城を構えた。

### 宗形神社の棟札（是里）

宗形神社は『延喜式』神名帳に記載される式内社の一つ。

1562（永禄 5）年に浦上宗景が本殿を再建した棟札が残る。天神山城を築城した直後には、周匝周辺を勢力下に置いていたことを示す一次史料。



永禄五年八月十六日  
奉建立大宮御正殿一字大願主浦上遠江守宗景

(1) 近世編纂物の『備前軍記』『備前記』にある「周匝城」「周匝村城」「周匝の城」を現在の遺跡名称でいう周匝茶臼山城跡と大仙山城跡と考へ、この冊子では「周匝城」と呼ぶ。

『備前記』には「周匝城」に浦上宗景家臣星賀藤内が居城したと記載があり、尼子氏侵攻の際に落城したとする。

(2) 図には表記していないが、浦上氏や松田氏の勢力下には宇喜多氏のような領主が多数存在した。

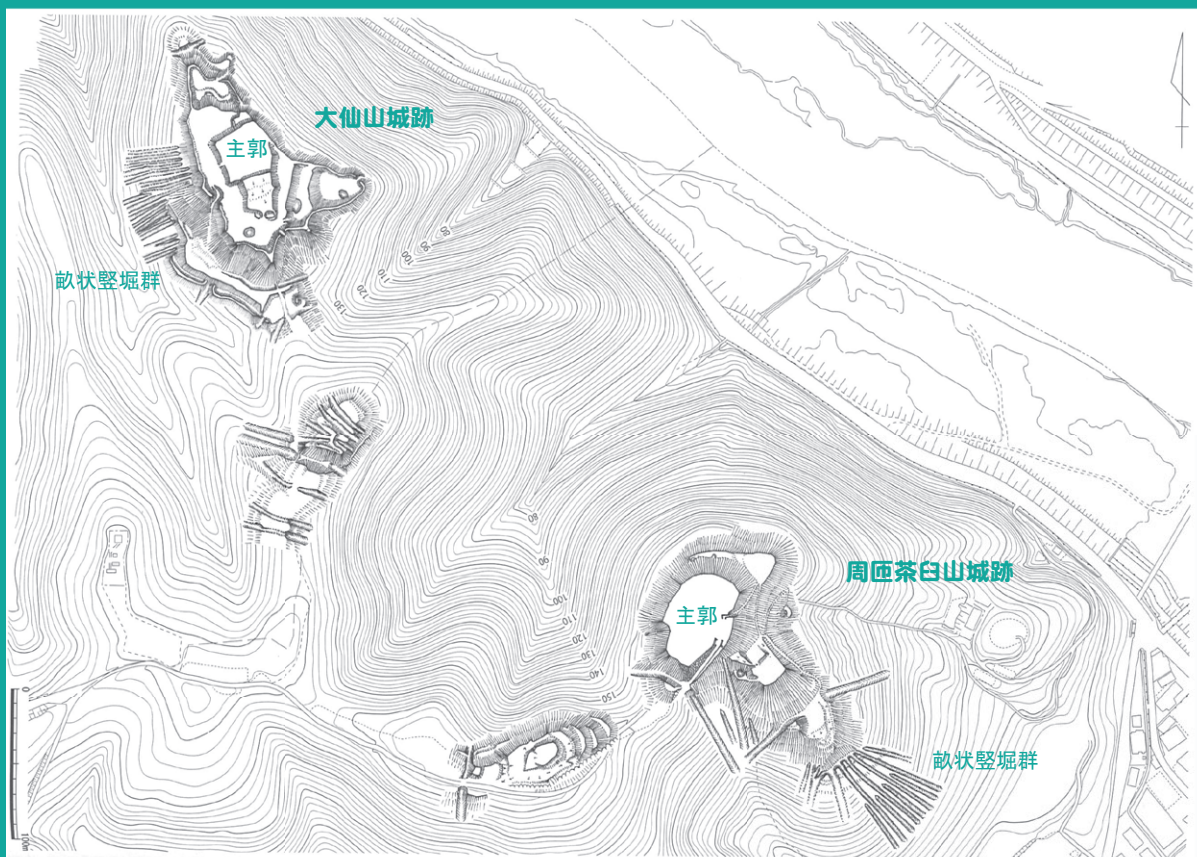
## (2) 「周匝城」

眼下に吉井川・吉野川の合流地点を望む二つの尾根上に総延長約 800m にわたって、<sup>れんかくしき</sup>連郭式の城郭遺構が築かれる。現在、周匝茶臼山城跡と大仙山城跡と呼ばれている。

周匝のまちを見渡すことができる茶臼山山塊の北東先端部に不整円形をなす主郭をもつ周匝茶臼山城跡がある。北東側<sup>くるわ</sup>に曲輪、南東側に上下2段からなる曲輪を配し、郭面の南斜面には4本の<sup>たてぼり</sup>豎堀、南東斜面には畝状豎堀群が整然と設けられている。1985（昭和60）年に主郭部の発掘調査が行われ、9.2×6.5mの楕円形で深さ5mの大形豎穴遺構のほか、土坑、柱穴が検出された。

周匝茶臼山城跡の北西約300mの別尾根上に大仙山城跡がある。一辺約40mの主郭を中心に計6郭からなる。主郭西斜面には18本の畝状豎堀群が掘られている。

周匝茶臼山城跡と大仙山城跡は、備前・美作国境の要衝である周匝の地に一体の城郭として形成されたと考えられる。



周匝茶臼山城跡と大仙山城跡の縄張り図（1/5,000） 作図：畑和良  
岡山県教育委員会 2020 を引用・加筆



周匝茶臼山城跡 主郭 発掘調査状況



大仙山城跡 堀切



大仙山城跡 土橋状遺構

### (3) 宇喜多直家による落城

宇喜多直家は、浦上宗景の家臣として勢力を伸ばし、備中国の三村氏や備前国の松田氏を圧倒し、1572（元亀 3）年には岡山城に入っていた。直家と宗景は、尼子氏や毛利氏といった強大な勢力に囲まれたため、ときには同盟・和睦、ときには対立して備前・美作国で勢力基盤を固めていった。ところが、織田信長が宗景に対して「備播作之朱印」を与えたことで、ついに直家は宗景と決別する。そして1575（天正 3）年に直家は宗景を天神山城から退去させる。その後、『備前軍記』には 1579（天正 7）年に宇喜多直家が花房職之・延原弾正を派遣して浦上旧臣の勢力である「周匝城」を取り囲み、佐々部（笹部）氏は城を逃れたが討死にしたと記される。ここに「周匝城」は落城したのである。

「周匝城」は、天文年間に尼子氏の侵攻を受けた時期や、浦上氏滅亡後の宇喜多氏の勢力拡大によって落城した時期などを認めることができよう。

#### 宇喜多氏

浦上氏の家臣であったが、備前国南部を拠点に勢力を伸ばした。直家は、浦上宗景の本拠天神山城を 1575（天正 3）年に落とす。その後、宇喜多氏は織田信長に近づき、さらに豊臣秀吉の天下統一が成し遂げられると、備前・美作国の支配を確立した。秀家は秀吉政権で重要な位置にいたが、1600（慶長 5）年の関ヶ原の戦いにおいて、徳川家康と対立する西軍に属したものの、敗北し没落した。

#### なかや いせき 中屋遺跡の大量出土銭（石）

周匝の南西、赤磐市石の中屋遺跡で畑脇の農道拡張作業の際に、法面から備前焼三耳壺に納められた大量出土銭が発見された。出土した銅銭は 56 種類 5,833 枚である。

三耳壺が 16 世紀前半のものと考えられ、出土銭に慶長通宝や寛永通宝を含まないことから、16 世紀後半頃の戦国時代に埋められたものと捉えられる。埋納の背景には、当時の軍事的緊張が想像される。



#### 周匝関係の略年表

時代	西暦	年	日本	周匝関係(岡山含む)
戦国 安土桃山	1551	天文20		尼子晴久の美作国侵攻
	1554	天文23		浦上宗景が天神山城を本拠地としたとされる
	1573	天正1	室町幕府滅亡	浦上宗景が織田信長から「備播作之朱印」を得る
	1575	天正3		池田長政が池田恒興の四男として尾張国に生まれる 宇喜多直家が天神山城を落とし、浦上宗景は播磨国へ退去
	1579	天正7		<b>宇喜多直家の軍勢によって「周匝城」落城</b>
	1582	天正10	本能寺の変	備中高松城の戦い
	1600	慶長5	関ヶ原の戦い	宇喜多秀家は西軍に属し敗退、没落 小早川秀秋が備前・美作国拝領 長政が播磨国赤穂2万2000石を拝領
	1602	慶長7		小早川秀秋が死去し、嗣子がなく小早川家断絶
江戸	1603	慶長8	江戸幕府成立	池田忠継が備前国28万石を拝領するも、幼少のため池田利隆が治める 長政が備前国下津井3万2000石へ移る
	1606	慶長11		池田長明が下津井に生まれる
	1607	慶長12		長政が死去し、長明が家督相続 長明が播磨国佐用2万2000石へ移る
	1613	慶長18		播磨国の池田輝政が死去したため、利隆が播磨国を拝領 池田忠継が備前国拝領
	1615	元和1	武家諸法度	池田忠継が死去し、池田忠雄が備前国拝領
	1632	寛永9		池田忠雄が死去 嗣子光仲が幼少のため、鳥取藩主池田光政と国替え 池田光政が岡山藩主へ <b>長明に周匝を給される</b>
	1642	寛永19		長明が岡山藩家老に任じられる

# 2 周匝の片桐池田家—江戸時代—

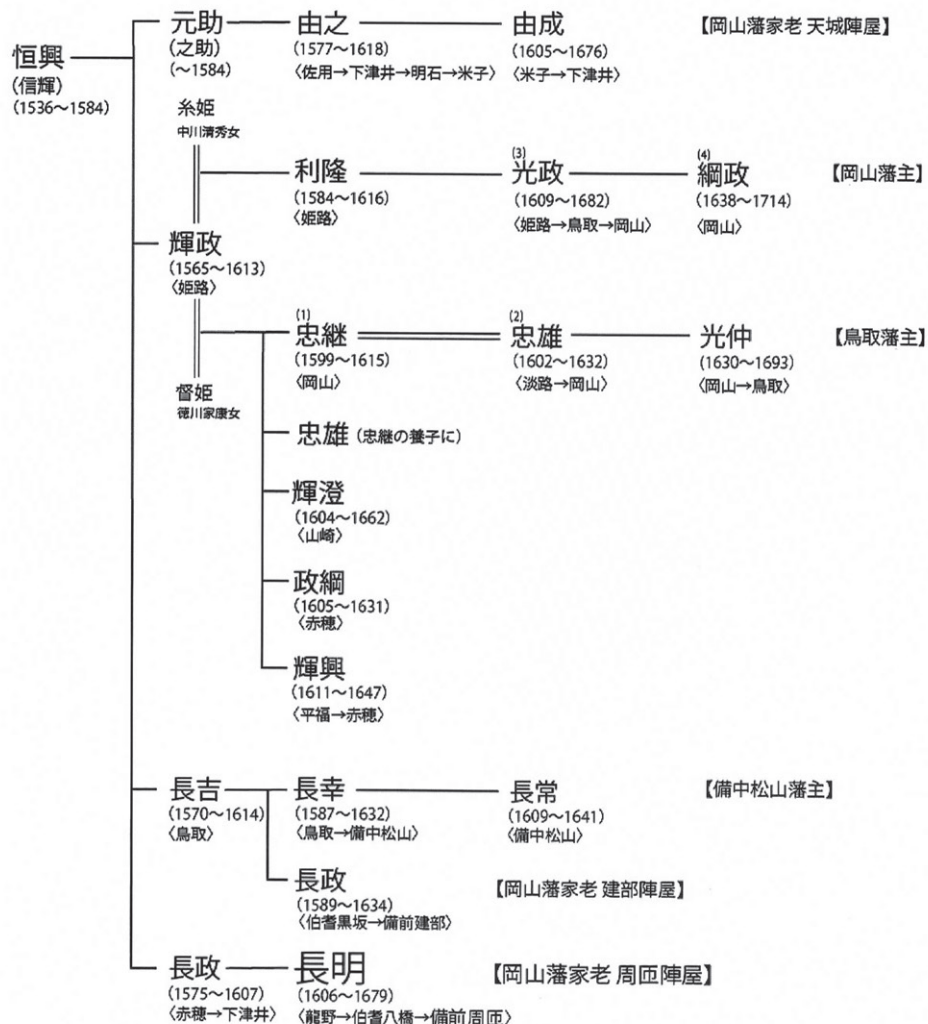
## (1) 池田氏の領国支配へ

宇喜多氏没落の後、備前・美作国を拝領したのは筑前国名島（現福岡市）の小早川秀秋であった。しかし、秀秋はまもなく 1602（慶長 7）年に死去し、跡継ぎがなく断絶する。このため、1603（慶長 8）年に備前国は、姫路藩主池田輝政の二男忠継ただつぐと与えられた。

忠継はわずか 5 歳という幼少であったために、そのまま姫路にとどまり、代わって兄の利隆としたかが備前の国政をあずかり、それは利隆が 1613（慶長 18）年に輝政の死で姫路に帰るまで続いた（利隆の「備前監国」）。備前国へは改めて二男忠継が配されるが、1615（元和 1）年に 17 歳の若さで死去したため、弟忠雄ただおが淡路から入った。忠雄が 1632（寛永 9）年に没すると、忠雄の子光仲が 3 歳の幼少であったので、鳥取藩主であった池田光政との間に国替えが行われた。

### 池田氏

美濃国池田荘の出身で、輝政の父恒興は織田氏、そして豊臣氏に仕えた。一方、恒興二男輝政は豊臣氏、さらには徳川家康に属して関ヶ原の戦いで戦功をあげる。そのことで輝政に播磨国 52 万石、弟長吉に因幡国四郡 6 万石、輝政二男忠継（徳川家康孫）に対しては備前国 28 万石が与えられる。



池田氏の略系図

## (2) 池田長明の周匝陣屋

池田光政が因幡・伯耆国から備前国に入り、その支配体制を確立するにあたり、家中に対する知行割りに手が付けられ、国境及び領内の要衝の地に家老などが配された。美作国との国境である周匝には、2万2000石を給された池田長明の陣屋が設けられた。ここに、大政奉還まで続く周匝の片桐池田家の陣屋町としての歴史がはじまった。

長明は1606（慶長11）年、池田長政の子として下津井（現倉敷市）に生まれた。翌1607年に父長政は急死し、長明は2歳にして家督を相続することになるが、知行地は1万石を減じたうえに、要衝の下津井から播磨国佐用、そして龍野に移された。1617（元和3）年に光政が因幡・伯耆国へ国替えになると、これに従って、伯耆国八橋（現鳥取県琴浦町）に居住した。さらに、光政の移封に伴い1632（寛永9）年に備前国に入った。

### 池田長政

池田恒興の四男として1575（天正3）年に尾張国に生まれ、9歳で恒興の重臣片桐俊元（半右衛門）の養子となっている。長政の系譜をひく池田家を片桐池田家と表記するのはこのためである。関ヶ原の戦いの後に、播磨国赤穂に2万2000石を領した。1603（慶長8）年には下津井に配された。



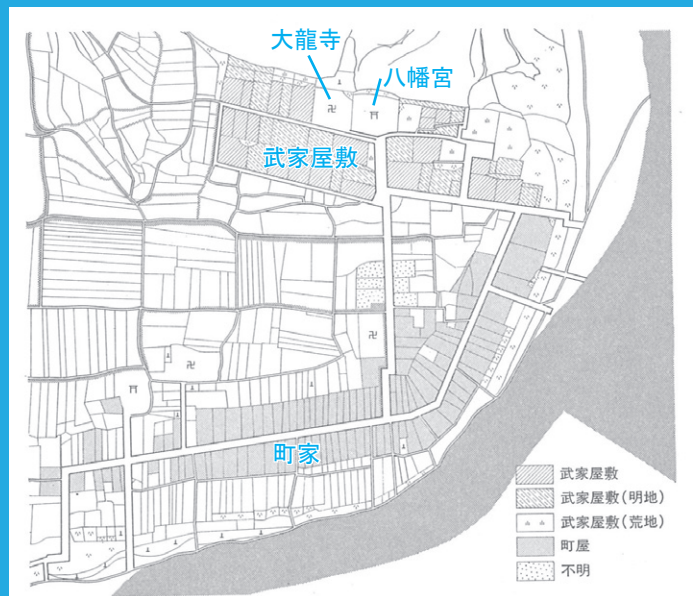
池田長政墓（新のお塚）



池田長明墓（空のお塚）

### 周匝陣屋

城山の南東麓にお茶屋（陣屋）が据えられ、西にのびる道の両側に侍屋敷が配された。そのほぼ中央には八幡宮と片桐池田家の菩提寺である大龍寺が存在する。



周匝村屋敷耕地等配置図 吉井町 1995 を引用・加筆



八幡宮

### (3) 岡山藩家老 片桐池田家

藩主池田光政は、1642（寛永 19）年に池田出羽・伊木長門・池田河内（長明）の三人を家老に任じて藩政を行った。長明以後、片桐池田家は代々岡山藩家老として藩政を総括した。

	領地	石高
伊木家	虫明	3万3000
天城池田家	天城	3万2000
片桐池田家	周匝	2万2000
日置家	金川	1万6000
建部池田家	建部	1万4000
土倉家	佐伯	1万1000



岡山藩の陣屋

名		略歴	生年	没年	
片桐 半右衛門				慶長2 (1597)	
1	池田 長政 ながまさ	橘左衛門 河内	9歳 片桐半右衛門養子 慶長5年 播磨国赤穂2万2000石 慶長8年 下津井3万2000石	天正3 (1575)	慶長12 (1607)
2	池田 長明 ながあき	新吉 河内 伊賀	慶長12年 播磨国佐用(平福)2万2000石 母と伊予松山へ 慶長18年 8歳で龍野へ帰る 元和3年 伯耆国八橋へ 寛永9年 周匝へ 寛永19年 仕置職 寛文8年 63歳で隠居	慶長11 (1606)	延宝7 (1679)
3	池田 長久 ながひさ	勝八 大学	明暦1年 11歳で藩主へ御目見の儀 寛文8年 24歳で家督相続、仕置職	正保2 (1645)	元禄10 (1697)
4	池田 長喬 ながたか	広助 靱負 主殿	元禄10年 家督相続、仕置役	延宝4 (1676)	享保8 (1723)
5	池田 長處 ながつね	梅之介 広助 但見 大学	享保8年 家督相続	元禄9 (1696)	宝暦4 (1754)
6	池田 長仍 ながゆき	新之助 広助 主殿 大和 近江	宝暦4年 家督相続 宝暦5年 仕置役 寛政1年 隠居	享保10 (1725)	寛政8 (1796)
7	池田 長玄 ながよし	勝守 斎宮助 大和 清翁	寛政1年 家督相続 寛政9年 仕置役 文化2年 隠居	寛保1 (1741)	文化11 (1814)
8	池田 長紀 ながのり	競 主殿 伊賀 広佐	文化2年 家督相続 文政4年 隠居	宝暦6 (1756)	文政6 (1823)
9	池田 長貞 ながさだ	岩之丞 但見 伊賀 楽心齋	文政4年 家督相続、仕置役 嘉永4年 隠居	寛政10 (1798)	嘉永6 (1853)
10	池田 長常 ながつね	久馬三郎 大学 伊賀 近江 謙堂 無通齋	嘉永4年 家督相続 慶応1年 仕置役 明治1年 執政	文政3 (1820)	明治9 (1876)
11	池田 長知 ながとも (長準)	秀之丞 主殿 采女助 競	明治1年 仕置役見習 執政見習	嘉永6 (1853)	大正2 (1913)

片桐池田家の系譜



### 池田近江下屋敷之図

1868 (明治1)年 155.4cm×214.5cm  
 岡山大学池田家文庫 岡山大学附属図書館所蔵

岡山城下の旭川の東側 (現在の岡山市中区御幸町・桜橋周辺) にあった家老池田近江 (長常) の下屋敷を描いた絵図。広大な敷地に立派な庭園を備えていた。



### 赤磐市吉井郷土資料館 (旧仁堀尋常高等小学校本館：登録有形文化財)

赤磐市周匝 136 土曜・日曜・祝日・年末年始休館

1927 (昭和2)年に建築された洋風木造二階建造で、郷土資料館として活用されている。茶臼山城跡から出土した備前焼大甕が展示されている。

### 城山公園 (周匝茶臼山城跡)

赤磐市周匝 15-6 月曜・年末年始休園

周匝茶臼山城跡に城型展望台が整備され、春には桜が咲き誇る (表紙写真)。



### 【引用・参考文献】

- 岡山県教育委員会 2020 『岡山県中世城館跡総合調査報告書』
- 岡山大学附属図書館 2004 『岡山城下町をあるく』
- 畑和良 2003 「浦上宗景権力の形成過程」『岡山地方史研究』100
- 吉井町 1995 『吉井町史』
- 吉井町教育委員会 1990 『備前周匝茶臼山城址発掘調査報告書』
- 渡邊大門 2012 『備前浦上氏』中世武士選書 12 戎光祥出版

### 編集・発行

岡山県赤磐市教育委員会

岡山県赤磐市下市 337

令和3年3月

【協力者】内池英樹 森俊弘